

事業所名		パーチェ吉祥院				支援プログラム		作成日		令和7	年	3	月	31	日	
法人（事業所）理念		1、発達的心配があったり、障害が疑われる子どもたち、障害が発見された子どもたちにとって、成長や発達を促す場として療育が保障されることを目指します。 2、子どもを育てている保護者が、一人で悩むこと無いよう育児のどんな悩みでも出せる場になること、そして「楽しい子育て」を共有できることを目指します。 3、子どもたちは仲間の中での育ちあいを大切にします。親とスタッフは子どもたちから学び、スタッフは親の子育てから学び、共に育ちあう場になることを目指します。 4、スタッフは子どもの発達を促す療育の実践を発展させることを目指します。 5、医療、福祉、保育、教育などの関係諸機関と連携をとり、子どもや家庭が安心して暮らせる地域づくりを目指します。														
支援方針		1、みんなと思いつきり遊ぶなかで、興味や関心を広げ「もっとやりたい」「もっと知りたい」という願いを豊かにします。 2、自分の思いや、要求をもち、自分なりの表現方法で人に伝える力を育てます。 3、人への信頼感を育て、人と関わる気持ちを豊かに育てます。 4、自分が好きと思える気持ちや、自信をもてる子どもを育てます。 (保護者の方へ) 1、子どもとの遊びを通して、親子で遊ぶ楽しさを体験します。2、子どもとの遊びや学習などを通して、子どもの理解を深めます。3、子育ての悩みを話し合い、保護者同士の交流を深めます。														
営業時間		9 時		0 分から		17 時		0 分まで		送迎実施の有無		あり			なし	
		支 援 内 容														
本人支援	健康・生活	健康状態を観察し、小さなサインでも心身の異変に気付けるようにしています。食事（弁当やおやつ）や排泄等の場面では、基本的な生活スキルを身に着けられるよう子どもの状態に応じて支援をします。咀嚼・嚥下、運動機能等の状況に応じて、環境整備をして「自分でできた」と感じ、「もっと自分でやってみよう」と挑戦する意欲を育みます。														
	運動・感覚	「遊び」を通してさまざまな姿勢や動作を経験し、身体全体の成長発達をうながします。室内では、大型遊具やエアートランポリン、吊り遊具などに取り組み、姿勢保持や動作の幅を広げていきます。夏にはプール活動に取り組み、全身の感覚を豊かにしていきます。また、近隣の公園での遊具等での遊びや園バスを使った山登りなどにも取り組みます。手指の活動では、素材遊び（粘土、スライム、寒天など）や制作活動を通して、手指の感覚を豊かにしたり、道具を操作する経験を積んでいきます。														
	認知・行動	子ども自身が「わかる」と感じられるよう、発達や特性に配慮して活動を用意しています。必要に応じて活動を予告したり、見通しを持ちやすくするよう「見て分かる」支援をします。また、感覚過敏を持つ子どもに対しては、空間や素材など安心できる環境を用意しています。														
	言語コミュニケーション	まずは職員との信頼関係を土台にして、人との関係を広げていきます。楽しいと感じられる「遊び」を通して、自分の気持ちを伝えたいという要求を豊かにしていきます。職員はその思いを受けとめ、コミュニケーションの心地よさを感じられるよう支援しています。言葉だけでなく、視線や表情、行動、発声など全ての表現方法をキャッチしていきます。言葉になりきれない思いは「〇〇だったんだよね」と職員が代弁し、「思いが伝わった」と感じられるように支援します。														
	人間関係社会性	年齢や発達の様子に合わせて、集団療育を実施しています。（5～8名程度）職員が子どもの思いを受けとめ、安心感を育んでいきます。そこから「先生とならやってみようかな」と新しい活動にもチャレンジしていく力を育みます。子ども同士の関係では、「お友達と一緒にたのしいね」と感じられるような「遊び」を設定しています。見たて遊びやつもり遊び、ごっこ遊びなどの表象遊びや、ルールのある遊び（協同遊び）を楽しむ中で、社会性の発達を支援します。														
家族支援		療育終了時には活動の様子について保護者に個別もしくは集団でフィードバックを行います。活動のねらいや子どもの発達について話し合ったり、保護者の相談を受ける時間としています。また、月1回の「親グループ」では、子どもの発達や特性、子育てについてなどテーマを設定し、子ども理解を深めています。グループワークから保護者同士の学び合いやピアカウンセリングの要素も作られるよう、職員がサポートしています。保護者の希望に応じて、K式発達検査を実施します。検査報告では、療育での様子も加えて子どもの発達や、支援方法についてフィードバックします。						移行支援		年長児については、就学に向けて個別に相談を受けています。就学先や学童、放課後デイなど地域や子どもの状態に応じて、安心して移行できるよう情報提供をしています。また、併設している相談支援事業所との連携や、学校等への引継ぎ等を行っています。						
地域支援・地域連携		・並行通園先との連携を行っています。それぞれの場所での子どもの姿を共有し、発達について理解を深めています。普段の生活の場での様子を知り、療育実践にも活かしています。また並行通園先から子ども理解や保育等について相談を受けた際には、発達や特性を考慮した支援方法について提案をしています。 ・毎月発行するおたよりを保護者を通じて並行通園先にも配布しています。						職員の質の向上		・日々の業務の中でPDCAサイクルを意識し、療育実践後の記録の際には、職員全体で振り返り次の活動内容について検討しています。保護者の言葉や子どもの様子を情報共有するよう努めています。 ・月1回の職員会議では、発達や特性、子どもや子育てについての社会情勢等について学習をしています。法人全体でも研修を行っており、年3回全体の研修に参加しています。 ・各種研修会にも積極的に参加し、実践報告も行っています。						
主な行事等		家族懇談会 支援者向け学習会 クリスマス会														